

その名大口

誇りと愛着のある学校

H 2 9 年 1 月 2 7 日

「言葉の重み」 1 学年 三原由麻先生

今月の14・15日はセンター試験がありましたね。私も少しだけ会場に行きましたが、独特の緊張感があり、今年もこの季節がやってきたと感じました。

私には、毎年この時期になると思い出すことがあります。それは、高校3年生のときセンター試験がうまくいかず、つい母に心ない言葉を言ってしまったことです。自分の弱さを母にぶつけてしまい、口に出した瞬間後悔しました。その後、母に謝り自分の素直な気持ちを伝えたものの、今でもそのときの自分の弱さを思い出し、発言してしまったことを後悔しています。

みなさんはどうですか。自分がうまくいっていないときに、一番近い存在である家族に八つ当たりしてしまっていることはありませんか。高校生活にもすっかり慣れて、先生方や友達にわざわざ言わなくてもいいようなことまで言っている人はいませんか。言葉は良くも悪くも非常に力を持っています。もうすぐみなさんは2年生になります。もう一度言葉の重みについて考えてください。人に伝える言葉は、マイナスの言葉でなくプラスの言葉を、自分の近くで支えてくれる人たちを大切に日々の生活を送ってください。



~~~~~  
 上はセンター試験出発式(1/13)、下は鹿児島大学での控え室。寸暇を惜しんで再チェックです。先生方も多数激励に来ました。全員の進路実現を祈っています。  
 ~~~~~

「ある大学院教授からのメッセージ」 3 学年 精松健作先生

私の好きなテレビ番組に『世界ふしぎ発見』(TBS)がある。好きといっても先日(2017.1.21)久しぶりに見た。番組の舞台はノルウェーのフィヨルド、冬の凍える海である。東京大学大学院の佐藤克文先生とその生徒秋山優さんを番組は追う。佐藤先生はバイオロギングという学問の第一人者。バイオは生物、ロギングは記録の意。佐藤先生は野生の海洋生物に小型カメラを取り付け、その生態を探る活動をしている。



番組は、佐藤先生と秋山さんがクジラの背中に小型カメラを取り付けようと悪戦苦闘する様子を追っていた。取り付け方法は原始的だ。クジラがいそうな所まで船で行き、クジラを見付け、クジラの背中へのカメラを取り付ける。クジラを見付けられても、クジラが水面上に浮き上がる僅かなタイミングを捉えなければならない。その僅かな時間を捉えて、手作りの6メートルの長さの棒で、吸盤付き小型カメラを取り付ける。船とクジラが近づき過ぎても危ない。その長い棒を操作するのがまた難しい。操作するのは生徒秋山さん。さまざまな困難を乗り越えて、やっとのことでクジラの背中に小型カメラの吸盤が引っ付けられた。



大変面白い番組だった。面白かったついでに私は番組後すぐにインターネットをつなぎ、佐藤先生の研究室の10人制ラグビー県高校新人大会で、大口高校は4戦全勝で優勝。3月宮崎での九州大会出場権を獲得しました。

ホームページを見つけた。ホームページの中に「大学院入学希望者へ」というページがある。その冒頭に、大学院入学希望者に対する「研究を希望する人へ」という佐藤先生からのメッセージがあり、それに続けて小学生、中学生、高校生、大学生、子供を持つ両親、マスコミ関係へといった各方面にもメッセージがあった。今日はその中から、皆さんに最初の3つのメッセージを紹介する。

まず「研究を希望する人へ」。大学院入学希望者に対して佐藤先生は、「やる気だけは誰に負けません」という言葉はあまり意味を持たないと言う。好きなテーマが見つければ誰でもやる気は出てくる。知りたいのは、具体的に何ができるのか。つまり「体力・持久力は無限にあります」「コンピュータでプログラミングができる」など。佐藤先生は特に数学・物理学・コンピュータープログラマーなどの教育を受けた異分野の人とのコラボレーションを望んでいる。

次に「小学生のみなさんへ」。学校の勉強を頑張ってください、特に国語が最も大切だと。本や新聞を読み、人の話を聴いて理解すること、自分の考えを言葉や文章にして人に伝えることが、これからの時代最も大切。しかし頭だけではダメで、体と心を鍛えることが大事。いろいろな遊びや体験を通して本当の知識を身につけて欲しいと。

最後に「中学生の皆さんへ」。学校で使う教科書の中にはウソが書いてある。つまり「本当はもっと複雑なんだけど、難しすぎるから、単純化して教えておこう」といった「中くらいのウソ」が書いてある。そこで、自分で気付いた疑問をよく考えて、先生に尋ねるなどして欲しいと。

今日は時間の関係で以上。

今私たちが生きるこの時代は、激変の時代である。佐藤先生のメッセージは、そうした時代を生きる私たちへのメッセージでもある。今日役に立ったはずの知識が明日は役に立たなくなる時代である。そうした時代を生きる私たちに求められることのひとつは、情報に誤りがないのか批判的姿勢を持って捉えながらしっかりと理解し、自分が持つ情報をしっかりと伝えることができるようになることである。また、この時代を生き抜くために、何らかの自分を武器を持ち、それとともに本物の知識を持たなければならない。それらが今の時代を生きる私たちに求められていることであり、時代に呑まれずに生きるためのスキルなのだろうと思う。

「習慣化している事を含め、今を見つめ直そう」 2学年 原田 定先生

私は長距離走が一番苦手なのですが、駅伝やマラソンを見ることは好きです。昨日は、男子の都道府県対抗駅伝がありましたが鹿児島県は13位と健闘しました。選手には会ったことはないけれど、監督は以前赴任した学校で旧知の間柄でよく知っています。県下一周駅伝でも活躍した人です。彼は、毎日陸上部の部活動後、黙々とグラウンドを走る人でした。専門とはいえ「走ること」が好きなのですねと聞いたら、「走る事が習慣化されています。走らないと落ち着かない」とのことでした。現役当時は県下一周駅伝の1ヶ月前くらいになると走る距離を増やして体重をコントロールしてベストな状態にして臨むとのことでした。



私の習慣化は、夜12時に就寝すること、父親に連絡すること、少し読書することくらいですが、皆の習慣化していることは何ですか。2年次は一人ひとり各方面で活躍してきたと思いますが、校内で見るとは、置き勉、宿題忘れ、少ない宅習時間、スマホ利用時間等、習慣化すべきでないことがまだまだ多いような気がします。まもなく2年次の自分は終わり、3年次の自分へたすきを渡そうとしているわけです。



左は、12月に引き続きアクティブラーニングを意識した校内研究授業の様子。上から大塚誠先生（生物）、下町太騎先生（数学）。人は皆今日までの走り方（生活の仕方）の実績で明日の自分へたすきを渡す以外にないのです。走るコースは決まりましたか。

走る速度も含め、今の走り方で大丈夫なのか、各自今を見つめ直してほしいものです。